

山下昭史市長就任インタビュー

市長に聞く

第2代三豊市長に就任された山下昭史市長に
就任の感想、抱負、三豊市のこれからの
まちづくりなどについて語っていただきました。

プロフィール

やました あきし
山下 昭史 昭和41年9月2日生(51歳)
平成 2年 3月 國學院大學経済学部卒業
平成 2年 4月 株式会社瀬戸内海放送入社
平成 21年 9月 同社退社
平成 23年 4月 県議会議員初当選
平成 27年 4月 県議会議員2期目
平成 29年 11月 県議会議員辞職
平成 29年 12月 三豊市長就任

農業は市の基幹産業です。しかし、農業従事者の高齢化や減少による労働力不足、農産物価格の低迷、耕作放棄地の増加などにより、農業をとりまく環境は、年々、厳しさを増しています。こうした現状を打開するため、農業分野での品質の向上と省力化を目的とするICT、さらには近年進歩が著しいAI（人工知能）技術の活用

Q 農水産業振興についての考えをお聞かせください。

農水産業の振興について

三豊市のかじ取りという重責に身の引き締まる思いと、大きな山を前にこれから登山を始めるときのような気持ちの高ぶりを感じています。
合併以降、12年かけて築き上げてきたものを大切にしながら、三豊市の明るい未来のため、市民の皆さんと共に考え、三豊市が少しでも良くなったと実感していただけるようスピード感を持って市政運営にあたります。

市内の中山間地域における農地は、ほ場整備されていないため狭小で、集約の対象とならない場合が多々あります。この中山間地域における農業の切り札として注目を集めているのが漢方薬の原料、いわゆる薬用作物の栽培です。

Q 耕作放棄地についての考えをお聞かせください。

現在、車の自動運転で社会に認知されつつあるAIですが、3年ほど前、大企業のIBMが手掛ける人工知能の存在を知りました。そして、AIの性能の良さを目の当たりにし、衝撃を受けました。以後、書籍を読んだり、AI技術の第一人者から話を聞いたりして知識を深めていくうちに、AIの持つ可能性に大きな期待を寄せるようになりました。

Q AIに強い関心を持たれていますが、そのきっかけは？
を検討します。AI技術には、過去の膨大な気象データや市場での取引価格をもとに作物の出荷時期を判断して成長を管理することが期待されます。この技術を他の産業への応用も視野に入れ、取り組んで行きたい思います。

職員への訓示を行う山下市長



第2代三豊市長に 山下昭史氏

前三豊市長横山忠始氏の急逝に伴い、前倒しで行うこととなった三豊市長選挙は、平成29年12月24日（日）に行われ、即日開票の結果、山下昭史氏が第2代三豊市長に選ばれました。

三豊市長選挙開票結果(敬称略)

当選 山下昭史 17,266票
大平敏弘 7,362票

山下市長は、12月26日（火）午前9時、大勢の職員と市民らが待つ三豊市役所へ初登庁。

続いて、職員への訓示を行いました。

「横山市政が12年間培ってきたものを大切にしながら、新しいことにも挑戦したい。

三豊市が抱える課題解決には縦割りではなく、

部局間士の横断的な調整が大変重要になってくる。

三豊市のために、市民のためにということを最優先に、市民力を生かしながら

“心をひとつに” 一丸となって取り組んで行きましょう」と訴えました。



漢方薬は、個人の体質や病気の症状に合わせて処方され、人が本来持っている自然治癒力を高めるもので、高齢化や健康意識の高まりにより需要が増えています。薬用作物は県内でも栽培が進んでいます。維持管理の面で改善すべき点もありますが、山間部の耕作放棄地の解消や集落営農の収入源となりますので、今後、検討していきたいと思っています。

中小企業の支援と投資について

Q 中小企業への支援などについての思いをお聞かせください。

三豊のエンジンとも言える中小企業ですが、素晴らしい技術を持ちながらも資金面の不安から新規事業に踏み切れない企業は少なくありません。

そこで、民間と地域金融、そして行政の三者によるファンドを創設し、将来性豊かな企業に直接投資し、企業を育てる仕組みを作りたいと思っています。

東京への一極集中が進む中、地方は地方で独自の企業育成を目指して投資を行うべきだと思います。

地域からの投資によってその経営規模を拡大し、市外からも就職したいと人が集まり、働き始めます。そして、家族を作り、定着していきます。おのずと人は増え、人口減少の歯止めにもなります。この地域ファンドにより投資した企業が、大企業に成長することを想像してみてください。三豊市が抱える課題の多くが解決することは言うまでもありません。

教育について

Q 教育についての考えをお聞かせください。



これまでどおり学校と家庭、地域で支える教育環境を整えていきたいと思っています。また、これからの検討していきたいのが、子どもたちが本当にやりたい、挑戦したいと思えるスポーツ環境の整備です。子どもたちがスポーツに接する機会は、小学生ならスポーツ少年団、中学生

は学校の部活動が中心です。しかし、進学した学校にやりたい部活動がないこともあります。どんなに才能があっても、その時点で諦めるか県外の学校へ進学するかありません。子どもたちの未来のため、さまざまなハードルはありますが、教育局とも話し合っていきたいと考えています。

Q 英語教育についてはどのような考えでしょうか。

グローバル社会のなかで、共通言語は必要であり、英語を学ぶことは大変良いことだと考えています。ただ、英語教育を行う場合には、子どもたちが母国語である日本語を正しく、きれいに使えることが前提にあると思います。私たちが普段、頭で物事を考えるときに使う言葉は日本語です。日本語を大事にした上で、語学やICTを利用した教育にも力を入れて取り組んでいきたいと考えます。

子育て環境の整備について

Q 子育て環境についての考えをお聞かせください。

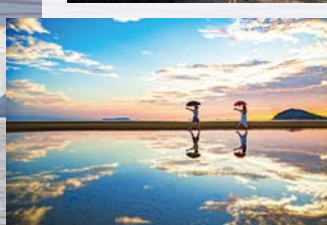
女性が活躍できる舞台を広げ、

安心して働ける環境づくりのため、これまでどおり幼稚園保育料の無償化や保育施設保育料の減額に取り組みます。子どもは三豊の将来そのもの。最優先で取り組まなければなりません。

観光について

Q 市内の観光振興についての考えをお聞かせください。

市内には多くの観光名所があります。なかでも紫雲出山の桜と瀬戸の島々が織りなす多島美や仁尾の父母ヶ浜は、他の自治体にはない三豊ならではの宝です。最近では、県内外はもとより外国からも多くの観光客が訪れるなど、これまでにないにぎわいを見せています。今後は、一度訪れた人に何度も足を運んでもらえるようなアイデアを出し、しっかりとPRしていきたいと思っています。



行財政改革について

Q 行財政改革の進め方についてお聞かせください。

これまでの行財政改革は、職員の給与カットや退職金の減額など、あれもこれもと切り詰める縮みの法則がありました。もちろん考えなければならぬ大切なことで、切り詰めるだけではなく税収を増やすといった攻めの姿勢も大切だと考えます。守るべきは守り、攻めるべきは攻める。このあたりを適時判断し進めてまいります。

地域内分権について

Q 地域内分権についての考えをお聞かせください。

前市長は、全身全霊をかけて地域内分権を推進してきました。そして今後も、地域内分権を継続して押し進めていきます。その鍵を握っているのは、7つの地域でさまざまな自主事業を行っているまちづくり推進隊です。市は、この団体が市全体をさらに活気づけてもらえるよう、最大限の応援をしていきたいと考えています。

市民の皆さんへのメッセージ

私がこれまで培ってきた民間企業、県議会議員などの経験、国や県とのパイプ、あらゆる手段を総動員し、さらには市民の皆さんの協力を得ながら、より良い三豊市になるよう全力を注いでいきます。心豊かで、幸せを実感できるようにみんなで頑張っていきましょう。目指すは市民全員が心をひとつにした「チームみとよ」です。どうぞよろしくお願いいたします。

市民の皆さんと
心をひとつにして
チームみとよを
目指します!!